

- ・ P. 11 の「8 貧困の連鎖に対応し、すべての子どもや若者が夢と希望をもって成長していける環境づくりが進む」の中の、「貧困＝ニート・ひきこもり・不登校」というような経済的問題につなげる文章表現は適切ではない。「全ての子に質の高い教育を提供する（質の高い教育・保育が保障される）こと」、「ニート等を社会で支援すること」という2つの視点が必要である。

(2) 「“夢” 実現プロジェクト」について

- ・ 「夢」という言葉だと、長期的なイメージを持つのが一般的である。この5年間（短期的）で成し遂げたいこと・成果を出したいことをピックアップしているという説明等が必要ではないか。
- ・ 区民の誇りを醸成するシティプロモーションは重要である。ただ、その一方で、それだけでは弱く、外の人を呼ぶためには、「外の人は何を好むか」を取り上げてプロモーションするマーケティングセンスが必要となる。
- ・ P. 35 のシティプロモーションの図がわかりづらく、表現の仕方が違うのではないか。
- ・ P. 44 では、シティプロモーションと言いながら、掲げられている事業が他と差別化されていない。ものを作るのはシティプロモーション以前にやっておくべきもの。シティプロモーションは、必要なものを作るのではなく、区内外をどのように結び付けていくか、どのように人に価値を伝えていくかであるから、出来上がったものを「暮らし続けたい・働きたい・訪れたい」とするために、もう一步加工するというイメージである。
- ・ シティプロモーションについて「これをやります」ということばかり書いているが、実際にはデータを集めて分析をするということが重要であり、行政が最も苦手とするところである。マーケットニーズをじっくり、しっかり調査してほしい。

(3) 計画の内容について

ア 基本目標

- ・ 政策 110 (P. 52～) では、歴史資産をどのように区民に伝えていくかが分かりにくい。例えば、郷土文化資料館事業を、学校教育・生涯教育にどのようにつなげるのかが明確になっていない。
- ・ 政策 120 (P. 58～) では、まだ「点」あるいは「点と点をつなげる利便性の向上」に留まり、「まち全体の楽しさ」まで示し切れていない。
- ・ 施策 123 (P. 64～) は、未だに「多言語対応」としているが、社会潮流部分でも触れているICTをもっと書いた方が良くはないか。ICT化が進めば、多言語表記看板等も不要となり、景観も悪化しない。

イ 基本目標

- ・ 施策 211 (P. 76～) の指標は、「地区計画の策定面積」ではなく、厳密に言えば「地区整備計画面積」を指していることについて、説明を入れるべき。

ウ 基本目標

- ・ 本区に「ものづくりがある」ということが重要なので、これを発展させるための取組を進めるべき。金属加工あり、生活雑貨ありという産業特性があるから、本区の産業は足腰が強い。どちらかを残せばいいということではなく、両方残せるような努力が必要。
- ・ 今、「日本ブランド」が世界で売れているが、今後は、「地域ブランド」の時代になっていく。日本では一般的な品物でも、世界では高ブランドになるということは、産業の世界ではよくあること。区内企業が世界で戦っていくための支援を積極的に行うべき。
- ・ 金属加工については、IT化を強力に支援していくことで、区内の企業数の減少を食い止めることを検討すべき。
- ・ 政策 320 (P . 96 ~) での商業に関しては、商店街より個店が先に記述されていることが高く評価する。個店が良ければ商店街も良くなるので、商業施策としては、個店の支援を強力に進めるべき。

エ 基本目標

政策 410 関連 (防災・防犯)

- ・ 政策 410 (P . 109 ~) の「政策を取り巻く現状」の中で、「国民保護法」についての記述があるが、施策の中では何ら触れられておらず、唐突であると感じる。
- ・ 政策 410 については、震災が起きてもすぐに立ち直れるしなやかさ「レジリエント (強靱化) 」という文言を用いた方が良いのではないか。このほか、地震等が発生すれば、様々な災害が起きるのだから、複合災害 (オールハザード) という文言も踏まえておく必要がある。
- ・ 施策 410 (P . 21 も同様) に「すみだらしさを残しながら作っていく」という視点がないことが気になる。木造住宅密集地は確かに防災上の課題はあるものの、まちの魅力と捉えることもできるので、P . 21 のように、木造密集地が悪いような文章表現で良いのかは今一度検討すべき。今あるものを活かしつつやっていくという視点は大切である。
- ・ 施策 412 (P . 112 ~) については、「自分の身を守る」という視点は大切だが、「お互い助け合える。協力しやすい」という表現ももっと記述すべき。

政策 420 関連 (福祉全般)

- ・ 施策 423 (P . 122 ~) の「生活に困った人」という施策名に違和感がある。買い物難民等、様々な「生活に困った人」がいる。本施策の記述内容は「生活」の困窮者ではなく、「経済」の困窮者である。
- ・ 施策 424 (P . 124 ~) に「消費者行政」が置かれていることに違和感がある。福祉の記述を分断しないように、現 424 を、420 の頭に移動させる (施策 421 とする) 方が、まだバランスが良い。

政策 440 関連 (障害者福祉)

- ・ 施策 441 (P . 139 ~) は他の事業に比べて「障害福祉サービス事業」という括りがあまりに大きい。もっと細かくしたらどうか。

	<p>政策 460 関連（子育て）</p> <ul style="list-style-type: none"> 政策 460（P．152～）は、保育の量と質がテーマとなるが、「量」のことばかり記述されている。本区の子育ては、量だけでなく「質の向上」も目指している。「量」という文章表現になっている部分を「量及び質」と変更すべき。 子育てひろばに行っても（場所だけあっても）、児童虐待はなくなるわけではない。「場所」ではなく「居場所」という文章表現に変更し、強調すべき。 子育て支援サービスという言葉があるが、国は「サービス」という表現を使わないようにしている。行政から提供をするという意味合いの強い「サービス」という言葉をできる限り使わず、それぞれが支え合える環境作りを意識してはどうか。 施策 461（P．155～）の「子ども版地域包括センター」という表現は誤解を招きやすい。保健施設が含まれるように誤解が生じる。 <p>政策 470 関連（教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の教育で弱いのが「個性と人権の教育」である。施策 472（P．164～）では、どのような子どもも大切にしようという意味合いで、このフレーズを入れてほしい。 <p>オ 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> P．186 の「主要 3 言語」という文章表現は適切か疑問。 オリンピックのレガシーを基本目標 に明記したらどうか。
所 管 課	企画経営室政策担当